



| | |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Title | 「遺伝相談（カウンセリング）」公開講座を実施して |
| Author(s) | 松本, 正; 堀井, 健一; 近藤, 達郎 |
| Citation | 長崎大学医学部保健学科紀要 = Bulletin of Nagasaki University School of Health Sciences. 2003, 16(2), p.87-89 |
| Issue Date | 2003-12 |
| URL | http://hdl.handle.net/10069/18021 |
| Right | |

This document is downloaded at: 2013-02-25T05:30:16Z

「遺伝相談（カウンセリング）」公開講座を実施して

松本 正¹・堀井 健一²・近藤 達郎³

要旨 遺伝医学の目覚ましい発展の一方でインフォームドコンセント、遺伝的差別、遺伝情報の守秘など種々の問題が生じてきている。これらの問題を解消するためには市民レベルにおける遺伝学の知識の普及が必要であり、根本的には学校教育における遺伝教育の充実が必要である。また遺伝学的診断法の進歩に伴い遺伝カウンセリングの需要は急増すると考えられる。このような観点から遺伝相談（カウンセリング）についての公開講座を実施した。参加者は多くはなかったが、講座に対する評価は肯定的なものであり、今後も継続していくことが必要と考えられた。

長崎大学医学部保健学科紀要 16(2): 87-89, 2003

Key Words : 遺伝カウンセリング, 公開講座, 遺伝イメージ

はじめに

遺伝学の進歩は目覚ましいものがあり、ヒト以外の生物に関しては種々の遺伝子組み換え生物が作られて食卓に登る一方で、遺伝子組み換え動物を使ったヒトの病気の病態解明や治療法開発の努力がなされている。ヒトに関しては、ヒトゲノム計画が終了してヒトの遺伝情報はほぼ全て解読され、ヒトの遺伝子の数は約32,000であること、ヒトとサルとの遺伝情報の違いは僅か2%であることなどが判明した。今後はゲノム情報に基づく新しい治療法や予防法の開発に向けて全世界が進んでいくと考えられる。これには遺伝子診断法の進歩（遺伝性疾患、生活習慣病の感受性、がんに対する易罹患性、薬剤感受性など）、ゲノム情報に基づく新しい薬剤の合成（ゲノム創薬）、最終的には遺伝子治療に向かう可能性などがあり、総合的に個人の遺伝情報に基づくオーダー（テーラー）メイド医療という方向に進むと考えられる。

このような進歩の一方では様々な問題が生じていることが指摘されている。1つは倫理的問題であり、インフォームドコンセントの不足の下での遺伝的検査の実施、遺伝情報の守秘と公開の問題、遺伝情報による差別（結婚、就職、保険など）、出生前診断・発症前診断などに関することであり、もう1つは遺伝教育の不備の問題である。欧米ではヒトゲノム計画の予算の内5%を倫理的問題や教育の問題に当ててきたが、我が国ではこのような措置はされてこなかったことと日本の文化的風土が相まって、我が国では遺伝学の進歩と一般市民とのギャップが大きいと言われている。

21世紀はゲノムの時代と言われるが、科学が人間にとって良い方向に進んでいるか否かは市民の一人一人が考えなければならないことである。しかし進歩の早さに対し

て、情報公開とその理解がなかなか追いつかないという現状を考えると、理解のための基礎知識が必要であり、このため一般市民を対象とした公開講座を開催することとした。

公開講座の実施と内容

1. 日 時 平成15年5月31日 午後1時～午後4時
2. 場 所 長崎市民会館男女共同参画センター
3. 受講料 無料
4. 内 容

- 1) 遺伝学の進歩と基礎
- 2) 遺伝教育の現状と展望
- 3) 遺伝カウンセリングの現状と問題点

「遺伝学の進歩と基礎」では遺伝学の進歩の現状と社会的・倫理的問題点、メンデル遺伝および人間の多様性などを解説した。

「遺伝教育の現状と展望」では高校教育における生物の時間数・内容の減少の現状、初等・中等教育における遺伝学教育方法の提案などを解説した。

「遺伝カウンセリングの現状と問題点」では日本における遺伝カウンセリングの現状と長崎県における遺伝カウンセリングの実情およびカウンセリングシステム・内容などについて解説した。

5. 「遺伝」に関するアンケート調査

講座開始前にアンケート用紙を配布し記入をお願いして回収した（表1）。回収率は89%であった。参加者の遺伝に対する意識レベルの高さを反映してか、周囲の遺伝性疾患ありは57%と高く、遺伝は自分とは関係ないとした人は1名のみであった。出生前診断を行うことのは是非に対しては約60%の人が場合によると回答した。遺伝

1 長崎大学医学部保健学科看護学専攻

2 長崎大学教育学部

3 長崎大学医学部附属病院遺伝カウンセリング室

表 1. 「遺伝」に関するアンケート

| | |
|----------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 高校時代の生物 あり 19 (83) なし 4 (17) | 2. 周囲の遺伝性疾患 あり 13 (57) なし 10 (43) |
| 3. 遺伝は自分と関係ない はい 1 (4) いいえ 22 (96) | |
| 4. 長崎県の遺伝カウンセリング体制 知っている 14 (61) 知らない 9 (39) | |
| 5. 出生前診断という言葉聞いた経験 あり 22 (96) なし 1 (4) | 6. 出生前診断の推進 肯定的 3 (13) 否定的 1 (4) 場合による 14 (61) わからない 4 (17) その他 1 (4) |
| 7. 「遺伝」についてのイメージ (複数回答; 回答数 65) | |
| 暗い 2 (3) | 個人の問題 5 (8) |
| 特殊 3 (4) | 家族の問題 12 (18) |
| 宿命的 16 (25) | 変化し得る 5 (8) |
| 秘密 6 (9) | 乗り越えられる 5 (8) |
| 恥 0 (0) | 幸福に役立つ 2 (3) |
| 罪・罰 0 (0) | その人らしさ 1 (2) |
| 運 4 (6) | |
| 神の定め 2 (3) | |
| 不変 1 (2) | |
| 難しい 1 (2) | |
| 否定的 35 (54) | |
| 肯定的 13 (20) | |
| 家族関係 17 (26) | |

() 内は%

についてのイメージでは、暗い、特殊、宿命的、秘密、恥、罪・罰、運、神の定め、不変、難しいの項目をまとめて否定的イメージ、個人の問題、家族の問題をまとめて家族関係、変化し得る、乗り越えられる、幸福に役立つ、その人らしさをまとめて肯定的イメージとすると、否定的イメージは54%、肯定的イメージは20%、家族関係は26%であった。

評 価

公開講座に対する評価はアンケート調査で行った (表 2)。回収率は参加者26名中22名で85%であった。なお記入漏れがあるので各項目の総数は異なるものがある。

参加者の年齢は20~50歳代に分布し、殆どは女性であった。職業としては公務員が43%、主婦が33%を占めた。これは受講動機も関連しており、職業上の必要性が最も多く、次いで社会常識としての必要性であった。講座の内容に対しては概ね良好な評価であった。

考 察

今回の公開講座への参加者は26名とやや少なかった。これは一部には講座の開講時期が関係すると思われる。長崎大学公開講座のポスター作成は5月初旬であり、開講時期との間に時間が少なかった。広報手段としては大学のポスター以外に、自己作成ポスター、県庁を經由している遺伝カウンセリングネットワーク、2種類の新聞

表 2. 公開講座に対する評価アンケート

| | | |
|----------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|------------------------------------------------|
| 1. 年齢; 20台 8 30台 5 40台 5 50台 5 | 2. 性; 男 1 女 22 | 3. 職業 公務員 9 (43) 主婦 7 (33) その他 5 (24) |
| 4. 講座内容の程度 適当 17 (77) 分かりやすく 4 (18) 無回答 1 (5) | 5. 講座の感想 とても良い 2 (9) 良かった 19 (86) 無回答 1 (5) | |
| 6. 講師 とても良い 4 (18) 良かった 17 (77) 無回答 1 (5) | 7. 講義方法 適当 18 (82) 具体的に 2 (9) テキストの工夫要 2 (9) | |
| 8. 役に立ったこと 遺伝一般の知識 9 (41) 遺伝教育の必要性 2 (9) 遺伝カウンセリング 5 (23) 無回答 6 (27) | | |

() 内は%

を利用したが、更に検討が必要と考えられた。

遺伝に関するアンケート調査では、周囲の遺伝性疾患の有無、遺伝と自分との関係、長崎県遺伝カウンセリング体制^{1,2)}の知識などの点で、今回の参加者は遺伝に対する意識の高さを推測させた。遺伝についてのイメージでは、質問項目の設定を今後考慮する必要があると考えられるが、否定的イメージの割合が高かった。一方、日本人の文化的風土として恥の文化と言われてきたが、遺伝と恥や罪・罰を結びつける回答は無かった。遺伝に関するアンケート調査は大学生を対象として進行中であるが、更に市民を対象とした調査を継続する必要があると考える。

公開講座の内容に対する評価としては、その難易度、講義方法などを含めて概ね良好との評価であった。遺伝に対する知識の必要度から考えて、遺伝に関する公開講座を継続していくことが必要と考えられる。

参考文献

1) 和泉志津子, 近藤達郎, 松本 正, 石川美由紀, 石丸忠之: 長崎大学医学部附属病院遺伝カウンセリング室の運用状況. 長崎県医師会報667: 57-61, 2001
2) T. Matsumoto, T. Kondoh, N. Niikawa, N. Maeda, T. Ishimaru: A genetic counseling system in Nagasaki Prefecture: The course and current status of the Genetic Counseling Unit in Nagasaki University Hospital. Acta Med Nagasaki 46:7-10, 2001

A public lecture for genetic counseling

Tadashi MATSUMOTO¹, Kenichi HORII², Tatsuro KONDOH³

1 Department of Nursing, Nagasaki University School of Medicine

2 Department of Education, Nagasaki University

3 Genetic counseling unit, Nagasaki University Hospital